

本事業に取り組むエリア(自治体名)	島根県奥出雲町	
本事業の実施主体	町立奥出雲病院, 奥出雲町健康福祉課, 島根リハビリテーション学院	
本事業に参画する団体名	町立奥出雲病院, 奥出雲町健康福祉課, 島根リハビリテーション学院	
地域の状況	①人口	約12,000人
	②地域の特徴	高齢化の進んだ中山間地である。
	③災害等の歴史	数十年前に大火があった。最近ではコロナ感染症の拡大があった。
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	病院が訪問診療、訪問看護、訪問栄養、訪問リハを実施しているが、奥出雲町の介護施設との連携が十分とは言えない。
	⑤その他特記事項	奥出雲病院が唯一の病院であり、病院を中心とした医療-介護の連携を進めるには比較的取り組みやすい環境といえる。
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	医療依存度が低い介護施設の利用者も、奥出雲病院へ受け入れの依頼が生じ、奥出雲病院の病床コントロールが困難となった。病院-施設間の情報共有の遅れがあり、病院からの専門職の派遣の遅れが生じた。施設では市販の検査キットしか使用できず、患者の発見が遅れ、クラスターの発生につながった。病院-施設間、施設間での必要物品の共有の仕組みがなく、困難が生じた。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	奥出雲町は、2つの町が合併してつくられた。この際に、2つの町の福祉会が合併せず今に至り、現在も十分な連携が取れていない。奥出雲町の地域包括ケアシステムの構築・持続的発展の為に、奥出雲病院、2つの福祉会との連携、すなわち医療-介護連携を促進すべきであるが、進んでいない。この度の、地域型BCPをつくるにあたって、これら施設間の連携を促進したいと考えた。
	③わが地域のBCP観点からの課題	上記で述べたが、奥出雲町は、2つの町が合併してつくられた。この際に、2つの町の福祉会が合併せず今に至り、現在も十分な連携が取れていない。地域の将来の為に、奥出雲病院、2つの福祉会との連携を促進すべきであるが、進んでいない。この度の、地域型BCPをつくるにあたって、これら施設間の連携を促進したいと考えた。また、奥出雲病院、その他の介護施設では、恒常的な人的・物的資源の不足が課題となっており、この課題は加速することが見込まれている。そのため、災害時には、特にBCPを整備しておく必要性を感じている。
	④その他特記事項	地域型BCPの整備を通じて、これまでなかなか進めることができなかった医療介護連携のBCP以外の側面の解決にもつなげたい。
取り組み内容と目標	今年度のプラン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 有事における医療・介護の役割・機能分担の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症にフォーカスし、具体的な事例をもとに、有事における町内の医療・介護の役割分担を明確にし、一般化する。</li> </ul> </li> <li>2) 経営母体が異なる機関が連携するための仕組み構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内で経営母体が異なる機関の相互支援のあり方を模索する</li> <li>・対価、支援依頼のフローなどの仕組みを検討する</li> <li>・病院と施設間でベッドコントロールルールに関するコンセンサスを得る</li> <li>・有事における医療、介護専門職の再配置、物品融通のルールを構築する</li> </ul> </li> <li>3) 地域BCP講演会の実施(9月~10月)</li> <li>4) シミュレーション訓練の実施(2月)</li> </ol>